

きょうは、農家をしている親戚のおじさんのところに遊びに行きました。

おじさんは、「うちでは、微生物が、野菜を病気から守ってくれているんだよ」と言って、微生物殺菌剤と書いてある袋をみせてくれました。

その袋の中には、微生物がいっぱい入っているんだそうです。「これはね、微生物防除剤の一種で、畑にまくとバチルス菌という納豆菌の仲間は、葉や花びらなど野菜の表面に住みついて陣取るんだ。そうすると、悪い菌はもう野菜に悪さできなくなるんだよ。」

わたしが、「怪我をしたところにバイ菌が入らないように、微生物が絆創膏の役目をしてきているのね」と言うと、おじさんは、「そうだね。野菜をバイ菌から守る微生物農薬はほかにもいろいろあるんだよ」と袋をみせてくれました。

微生物農薬の袋に出光って書いてあるので、「おじさん、出光ってあの石油の会社のイデミツ？」と不思議に思ったはずねると、「野菜を育てるために必要な温室の燃料と安心安全な農薬の両方を出光がつくっているなんて想像もつかなかったよ。」と笑っていました。

おじさんは、畑で実っていた赤いトマトをもいで洗って、食べてごらん、とわたしてくれました。「微生物のおかげで、化学物質に頼りすぎずに、おいしい野菜が作れるんだよ。おじさんたちのようにつくるひとや食べるひとにとっても、それはうれしいことなんだ」と、おじさんは日焼けした顔で笑いました。

トマトは、とてもおいしかった！



おじさんちの大きなビニールハウス



この中に菌がいっぱい？



微生物でバイ菌から守られています。